

[演題 1]

国道沿いの植込みからのホタルガの発生事例

中野 敬一(東京都港区)

Small case of occurrence of *Pidorus atratus* in border in national route

Keiichi NAKANO (minato city in Tokyo)

ホタルガ *Pidorus atratus* Butler は、マダラガ科ホタルガ亜科の蛾類である。成虫は開張 45-60mm, つや消しの黒褐色の前翅に太い白色帯がある。赤紅色の頭部に青みがかった黒褐色で櫛歯状の触覚を持つ。灯火にも来るが、昼行性で雄は雌を求めて地上 50 cm の低い位置を飛翔する。6-7 月と 8-9 月の年 2 回発生する。

老齢幼虫は 28mm 内外, 体は太く凸凹があり, 頭部は胸節内に隠れている。青みを帯びた灰色, 黄色, 黒色の明瞭な模様がある。刺激を受けると分泌液を出し, 有毒と言われる。ツバキ科のサカキ, ヒサカキ, ハマヒサカキ, ニシキギ科のマサキを摂食する。若齢幼虫は葉裏から表皮を残して点々と蚕食するため食害痕が残り目立つ。幼虫は集合性があるらしく, 成長した幼虫もあまり分散せずに蚕食するため食樹が丸坊主状態になることもある。幼齢幼虫で越冬する。

観察内容

2016 年 6 月 11 日に東京都港区芝 4 丁目周辺を通過する国道 15 号(通称 第一京浜) 約 400m の間にある植込み(ハマヒサカキ)の反対側の建物にホタルガ成虫が複数静止していることを確認した。建物の壁面や路上に静止している成虫を目視し記録した。

結果

建物や路上に静止している成虫は 68 個体であった。歩道にハマヒサカキの植込みがあり, 静止している成虫と幼虫による食害痕が確認された。この植込みには経年的に本種の発生がみられる。

考察と今後の調査予定

街路樹などに発生することもあるマイマイガやモンクロシャチホコなどの幼虫は, 大型で樹木の葉を暴食し, 移動性も高いため周辺の住民に気づかれ, 駆除されることが多い。ホタルガ幼虫は集団で発生しているにもかかわらず, 通行人や住民にあまり気づかれないように思われる。本種の食樹であるハマヒサカキ *Eurya emarginata* は常緑の低木で, 植込みは 1m 程度に剪定されている。クチクラの発達した光沢のある葉を密生するが, ホタルガ幼虫は小型で葉裏から摂食し, 活発に移動しないために見つかりにくい。これが都市で繁栄している理由のひとつではないかと考えている。

今後, 都市の公開空地や歩道の植込みのハマヒサカキを調査し, ホタルガの生息状況を把握するとともに都市における生態を解明していきたい。